

令和7年度 土浦日本大学中等教育学校自己評価票

本校の目指す学校像	土浦日本大学学園建学の精神に基づき自主自立の気風を養い，中等普通教育及び高等普通教育並びに専門教育を一貫して教育することによって世界の平和と人類の福祉に寄与しうる人材の育成をはかり，社会に貢献することを目的とする。目的実現のため次の目標を掲げるものとする。 （１）豊かな語学力を習得し，世界の人々と対話のできる日本人を目指します （２）自分たちを育てた文化や社会を理解し日本の素晴らしさを世界に発信します （３）複雑化した現代社会を生き抜くために，教養を磨きさらに得意分野を生かした高度な専門知識を身につけます （４）読書，絵画，音楽等を通じて芸術や文化を愛し理解する心を磨き，みずみずしい感性を養います （５）さまざまな危機に直面する地球環境をつねに心の片隅において行動のできる人，地球にやさしい人を目指します
本校の特長及び課題	多様化する世界において格差を乗り越え，国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。そのために，次の３点を重視する。 1. 公正な精神のもとで「卓越性」を達成する 2. 社会という文脈の中で「読み解く力」を高める 3. 「相互依存」の関係を構築して主張する

令和 7 年度の取組結果

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
教育活動 (教務)	・ 明確な指導計画の作成と実行 ・ 校内施設, ICT 教育設備の充実 ・ 新成績評価の円滑な実施 ・ 業務の効率化	・ 生徒一人一人が主体的に学習に取り組むための工夫がなされていた。 ・ 生徒個々の状況に合わせ, 適切な指導を行った。 ・ ICT 教育を充実させるため, 昨年度に続き, 未整備だった普通教室に黒板投影型のプロジェクターを設置した。 ・ 適正な人数のクラスを設置し, 適切な成績・進級判定がなされた。 ・ 生徒指導要録の記入, 指導, 点検, 保管は的確になされ, 生徒の転学が生じた際にも相手校と連絡を取り合い適正に処理した。また, 学年とも協力し, 各生徒が学びの連続性を維持できるように配慮した。 ・ 個人情報の取り扱いに十分に気を配り, 管理を徹底した。 ・ 生徒の状況や大学入試の変化に合わせた新成績評価を開始した。初年度で多少の混乱はありつつも, 実施の道筋を立てることができた。Unit Test, Performance Test, まとめ課題の 3 つの軸による成績評価を開始し, 基礎の定着と応用的な思考力や表現力を育成できた。全般的な成績状況の把握・共有, Unit Test の頻度, スケジュール調整に改善の余地がある。 ・ 生徒 1 人ひとりの学習状況, 進路情報などを 6 年間通して記録することができる独自のシステムを構築し, 試験運用を行った。 ・ 時間割の編成方法を工夫したことにより, 教員の研修機会を増やし, 自己研鑽を積むことのできる環境をつくった。 ・ 新任教員を中心に, 校外の研修会や研究会に参加する機会を設定し, 教科指導や生徒指導について研修を行った。 ・ 各学年と協力し, 総合的な学習・探究の時間, 道徳の時間の内容を充実させることができた。 ・ 本校の特徴である課外授業については引き続き教育インターン制度を活用し, 指導体制を充実させることができた。 ・ ゼミ活動で積極的に外部大会等に出場し, 県や全国レベルの成果を残すことができた。	A

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
学校生活への配慮 (生徒指導)	・安全な学校生活の実現 ・生徒心得に則った身だしなみ指導 ・いじめ防止教育の実施	・指導目標・指導内容を明確にした指導計画を作成した。教員間で生徒指導の考え方や方法が十分に統一されていない面がある。特に服装指導のほか、スマートフォン、SNSの利用などの現代的な諸課題への対応が求められる。 ・学年、保健室、カウンセラーなどと協力して、不登校傾向の生徒に対して細やかな対応を行った。 ・年に3回、学校生活調査を実施し、その結果を学年や学校全体で共有し、共通した認識を形成した上で、指導を行った。特にいじめ防止対策委員会を開催し、生徒指導部を中心に管理職、学年主任、保健室、カウンセラーら様々な観点から対策に取り組んだ。軽微な事象も「いじめ」と認知し対応した。 ・毎日の立哨指導、数ヶ月に1度の校外指導で、通学マナー向上と登下校時の安全を確保した。 ・生徒会役員、マナーアップ委員の生徒も参加し、マナーアップ週間を実施し、朝玄関で身だしなみのチェックを行った。 ・落とし物の案内を工夫し、返還率を高めた。 ・SNS、多様性、命の大切さ、交通安全、薬物乱用防止をテーマとした教育講座を実施し、現代社会の視座から見識を深める機会を設定した。引き続き、現代的な課題への講座を実施する。	B
生徒会・部活動 (特別活動)	・活発な委員会活動の実施 ・生徒主導で実施できる指導	・いくつかの委員会では強化週間や各種行事を中心に積極的な活動を実施することができた。一方で活動に消極的な委員会もあり、今後も取り組みを継続していきたい。 ・クラブ活動・課外活動が活発に行われた。 ・生徒会役員選出方法を役職別立候補制から選出後の互選方式へ変更し、適材適所で活動できる体制を整えた。 ・合唱コンクールの運営を教員主導から生徒主導へと改めた。 ・2回目の踏破会を実施し、学年を横断したチーム編成を行い、新たな交流が生まれる機会を設定した。 ・学校行事に関して、校風や教育目標を理解し、特色を出すような工夫、改善を図った。	A

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
進路指導	・日大付属校としての多様な進路実現 ・各学年、各チームに応じた進路指導の展開	・日本大学医学部3名、獣医学科2名、筑波大学医学部医学類1名など、医療系の合格実績を大きく伸ばした。 ・生徒個々に合った進路指導を展開し、総合型選抜や学校推薦型選抜を利用する生徒に対し、指導担当教員を配置し、志望理由書の添削や面接指導を組織的に行った。結果的に、生徒個人の希望や豊かな経験をもとに難関大に多数の合格者が出た。 ・前期課程を対象にした学習意欲向上のためのしかけを含め、6年間にわたる進路指導の流れを形成していくことが求められる。 ・後期課程を中心に保護者対象の進路説明会を実施し、進路指導について、家庭との情報共有ができた。 ・卒業生講演会や大学・学問ディスカバリーフォーラムを実施し、進学中心から職業観も含めた進路全般の学びの場へと昇華させることができた。	B
保健・衛生	・適切な健康診断の実施 ・保健室利用者の把握 ・健康管理の支援と教育相談の活用	・生徒の健康診断については、当初の予定通り実施し、生徒の健康管理に努めることができた。 ・生徒の健康管理について、家庭や担任との連携を図ることができた。 ・保健室だよりを月1回発行し、時期ごとの健康上の留意点を周知した。 ・校内の情報共有システムを使いながら、保健室の利用状況をリアルタイムで職員室と共有し、生徒一人一人に対してきめ細かい対応を行うことができた。 ・カウンセラーの利用は限られた時間の中でも連携が取れている。今後も利用していない生徒にも利用してもらえるよう周知していきたい。	A
図書	・読書案内の充実 ・図書館活用率の向上 ・進路、進学指導に資する資料の用意	・図書委員会では新規購入図書の紹介を各クラスへ行い、前期課程では小説利用、後期課程では学習書利用が増加した。 ・進路指導部と連携し、積極的な自習室の利用を励行している。 ・土浦市立図書館との展示コラボレーションや、各教科と連携した調べ学習での利用を通して、読書意欲の向上を図った。 ・不明図書の多い学習参考書を、配架場所を工夫することで紛失防止や利便性向上を両立させた。	B

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
広報（情報入試）	・ 広報活動の充実 ・ 6 ヶ年教育および大学進学を意図する、より質の高い生徒の確保 ・ 定員 140 名の充足と優秀な入学者の確保	・ SNS（X, Instagram 等）やインターネットを活用した情報発信の強化を進め、紙媒体を縮小させた。 ・ 7 年連続で志願者数が 1000 名(1050 名)を超え、定員 140 名を超える入学者(167 名)を確保することができた。 ・ 学習塾との連絡を密にとり、教育理念や学校の情報を的確に伝えることができた。 ・ ICAP, ACE, CSAT, ICL, ISAT, KBT 入試と特性の異なる入試を展開することで、多様な入学者の確保につながった。一方で試験日程・内容の変更が影響し、受験者が減少した入試方式もあり、今後改善の余地がある。	A
管理運営	・ 教育方針の浸透 ・ 各教員の資質・能力の向上 ・ 各教員のライフステージに応じた相互協力体制の構築	・ 定期的な教員研修を実施し、教育方針を各教員に浸透させることができた。 ・ 若手・中堅教員を中心に AI 等を活用したシステム構築を行い、事務作業の効率化と高度化を推進した。 ・ 自主研修をしやすい勤務体系を確立し、各教員が自己研鑽に努めた。 ・ 教務・生徒指導・進路・特別活動の各主任が管理職と密に連携し、学校全体の課題に対して組織的に対応した。 ・ 新任教員だけでなく、経験の多い教員についても、社会情勢の変化を理解し、新たな教育活動の実践を進められる体制を整備した。 ・ 教員の勤務体制の整備を行ったうえで、Slack やデジタル採点システムなどのデジタルツールを活用した。教員間の情報共有、出張等の振替・代講などを概ね順調に行うことができた。	A
庶務	・ 時代の変化をとらえた式典や保護者会の運営 ・ 同窓会活動の再構築	・ 保護者対象大学見学会や制服バザーなど、保護者会行事が積極的に行われた。 ・ 地区会の活動が活発になり、どの地区も交流の機会を持つことができた。 ・ 入学式や卒業式の式典には、庶務部を中心に全教職員で対応することができた。 ・ 定期的な避難訓練や、清掃用具の更新に積極的に取り組むことができた。 ・ 同窓会活動の再構築を進め、新たな役員選出を行い、活動を開始している。	A

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
学年	・前期課程 ・後期課程	・1 学年では研修や行事の中で自ら考え行動しようとする姿勢が見られ、挨拶や時間遵守など基本的習慣の定着が一定程度見られた。 ・2 学年では、昨年度と比較し遅刻や保健室利用者は減少傾向となった。豪州研修では病院利用生徒がおらず、軽症のみで済んだ。一方で平素の欠席率が高く、スマートフォンの使用時間が長い生徒も多い。 ・3 学年では、休み時間や放課後に教員へ質問する生徒が増え、学習意欲の向上が見られた。 ・学習習慣の確立や苦手意識を持つなど、学習面に課題を持つ生徒の意識を向上させ、適切な対応が必要である。 ・友人関係については言動・行動を注視し、良好な関係を築けるよう指導を継続していきたい。 ・4 学年では基礎学力到達度テストで3 教科の成績が向上した。豪州研修でのプロジェクトワークを通して、積極的なリサーチ活動を行った。 ・5 学年では、生徒同士で互いに教え合う関係ができてきた。郊外の活動やコンテストなどに積極的に挑戦し、成果を挙げている生徒を多く出した。 ・6 学年では、一人ひとりの志望や適性を踏まえて、効果的な進路指導を行い、日本大学を中心に医学科、獣医学科など、多くの生徒が進路実現を果たした。進路決定後に、金融教育や起業家教育など、進学後や社会に出た際に必要なスキルを育む企画を実施した。 ・総合的な探究の時間の模擬国会をはじめ、模擬国連に参加するなど、グローバルな視点で物事を考える取り組みを行った。	A

達成状況評価基準	A	取組目標が十分達成された	「よくできている」「できている」割合が 90%以上
	B	概ね達成された	「よくできている」「できている」割合が 80%以上
	C	課題を多く残している	「よくできている」「できている」割合が 70%以上
	D	成果が出ていない	「よくできている」「できている」割合が 70%未満